

豊田市障がい者 総合支援センター

平成24年度

ふたば

平成24年度
活動報告・研究報告「結」
平成26年 3月発行

豊田市障がい者総合支援センター
<http://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/>

社会福祉法人 豊田市福祉事業団

豊田市障がい者総合支援センター「結 平成24年度」を作成いたしました。

平成17年度から、総合支援センターの各施設がその年度に行った取組みの一つを採り上げ、紹介させていただきました「紀要」を、24年度版からは手に取っていただきやすい形に一新いたしました。また、豊田市福祉事業団のホームページにも掲載していく予定です。多くの方にご覧いただき、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

私たちは誰かとつながって生きています。

ひとりで悲しんでいるとき

誰かに話を聞いてもらえたら、少し楽になるかもしれない

うれしいことがあったとき

誰かに「よかったね」といってもらえたら、もっとうれしくなるかもしれない

ひとりではできないことも

誰かと力を合わせれば、できるかもしれない

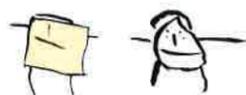
利用者の方と地域の方々が結ばれることで、お互いがハッピーになれるといいなと考えながら、私たちは毎日の支援を行っています。

私たちの支援を地域の方々に少しでも知ってもらいたい。

その思いを「結」という言葉にのせて発行いたします。

(表紙の題字は、第二ひまわり 海田唱市さん)

豊田市障がい者 総合支援センター

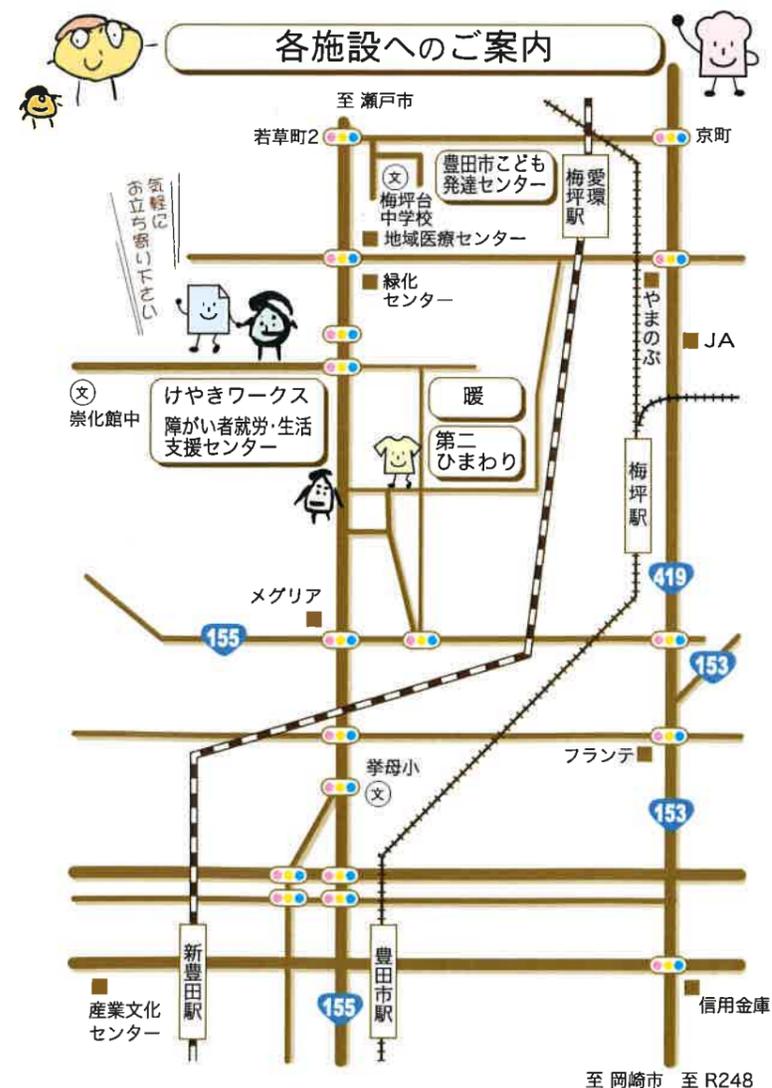


豊田市障がい者総合支援センターとは、障がいのある方の自立及び社会参加を支援し、豊かな地域生活を図るため、豊田市が設置した施設です。「障がい者就労・生活支援センター」「けやきワークス」「第二ひまわり」「暖」の4部門で構成しています。

豊田市から指定管理者の指定を受けた豊田市福祉事業団が、障がい者自立支援法に規定する障がい福祉サービス事業と、豊田市から委託された就労生活支援事業などを行っています。

目次

けやきワークス よっていきん祭	1
暖 小学生との交流	3
第二ひまわり サークル活動	5
障がい者就労・生活支援センター 発達障がい者の相談	7



至 岡崎市 至 R248

けやきワークス☆よっていきん祭

けやきワークス☆よっていきん祭とは…

けやきワークスは2004年に現在の栄町へ移転してきました。温かく迎えてくださった近隣の地域の方々や、日頃利用いただいているお客様への感謝の気持ちを込めて、利用者・職員の力を合わせて、けやきワークス感謝祭を開催しました。2009年には、けやきワークスをより身近に感じてもらえるようにと名称をけやきワークス☆よっていきん祭(以下:よっていきん祭)に変更しました。2012年で4回目を迎えることができました。

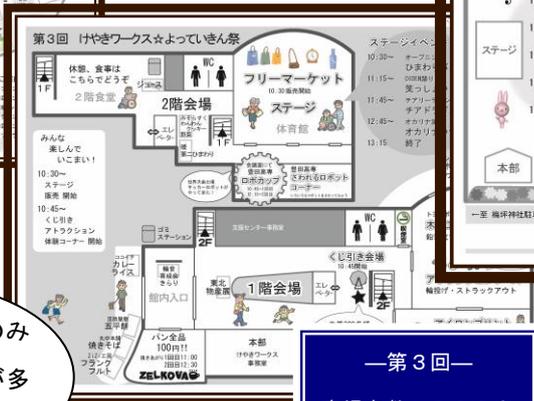
よっていきん祭チラシコレクション



会場スケールの比較



—第2回—
来場者数：800人



—第3回—
来場者数：800人



—第4回—
来場者数：1000人

当初は屋外・屋内のみでの開催パターンが多かったのですが…。

第4回は屋内外全て会場に。年々大規模化しています！

こんなテーマでやっていました！

第1回
アート



第2回
コラボレーション



第3回
豊田から元気発信
～届け東北～



第4回
きて！みて！
あそんで！



福引き

第1回から続く名物企画 毎年多くの来場者が訪れます。

物品販売

手作り雑貨から野菜まで幅広く取り扱っています。

喫茶・ベーカリー

焼きたてパンが全て100円で食べられるのはこの日だけ！



ステージ

歌に踊りに大道芸！お祭りを盛り上げます。

体験コーナー

ここでしかできない体験があるかも!?

フリーマーケット

掘り出し物がザックザク！

模擬店

飲食コーナーも充実！



移動販売車誘致

有名店がやってきた！

東北応援企画

買う事から始まる被災地支援。

サイエンスショー

他団体の協力

年々、内容を充実させているよっていきん祭ですが、感謝の心と親しみやすさを大切に、普段から関わりのある近隣の学校や福祉施設、各種団体とも声を掛け合い地域に根ざしたイベントになるよう企画しています。



けやきワークス(木)と協力者(人)と来場者(鳥)との関係性のイメージ図です。

よっていきん祭を含め、けやきワークスは多くの関係者や地域の方々の理解・協力によって成長しています。

地域とのつながり

感謝祭、よっていきん祭と地域に根ざしたイベントの開催をきっかけに、他団体と交流を持ち、外部のイベントの参加依頼を受ける機会が増えました。外部のイベントに参加することで、仕事の幅を広げると同時に、障がいのある人が社会参加できることを多くの方に知ってもらうことができます。今後もよっていきん祭を通じて地域とのつながりを深めていきます。

けやきワークス

就労継続B型・就労移行

小学生との交流

4回の交流で仲良くなろう！

暖では平成15年度から近隣小学校との交流を定期的に行っています。

小学校から福祉体験学習の依頼を受け、小学5年生のクラスごとに、年4回交流します。一緒に過ごす時間を経て、利用者と小学生との距離が縮まっていきます。

交流1回目in小学校

利用者が小学校に行き、写真を使って暖での生活や活動の様子を説明します。

また、2回目3回目の交流に向けて、利用者の好きなこと得意なことを小学生に伝えます。それをもとに小学生が、利用者と一緒にできるゲームやアトラクションを考えてくれます。



交流2回目in暖

小学生が考えてきてくれたゲームや紙芝居、歌や合奏などを一緒に楽しみます。

利用者1名と小学生5名のグループに分かれて交流を深めていきます。その中で、小学生が感じたことや利用者との関わり方でわからないことなどを聴き取り、職員がアドバイスをします。小学校に戻ってからも、3回目の交流がより楽しめる内容になるよう話し合いをしてくれます。



交流3回目in暖

小学生と利用者が「一緒に楽しめる」活動を工夫しながら交流します。

職員は、利用者の細かなサインを小学生に伝えたり、工夫のポイントをアドバイスしたりします。小学生は、利用者の声や表情や仕草を見つめ、試行錯誤しながら活動を進めます。利用者も、小学生に自分のサインが伝わるようにと力が入ります。



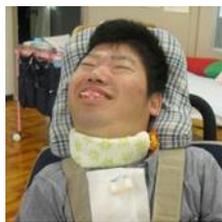
交流4回目in市街地

一緒に市街地を散策します。小学生に車いすを押してもらい、先回りして扉を開けることの大事さや、バリアフリーの大切さを感じてもらいます。

職員は、体の小さい小学生が車いすを押し場合に起こりうる転倒などの危険を予測して対応します。小学生は、少しの段差や傾斜でも車いすの人にはバリアになることに気づいてくれます。



表情やしぐさをとおして交流しました



笑顔で会話した A さん

小学生 Aさんとボーリングをしよう！
ボール持てるかな？投げられるかな？

こんな道具があるけど、使ってみる？ 職員

雨どいを使うとAさんは自分のタイミングでボールを転がすことができます。子どもたちが雨どいをピンの方へ向けて、Aさんに合図を送ります。ピンが倒れる音とみんなの歓声に、Aさんはニッコリ！

Aさんの笑顔が、道具を工夫することの大事さを子どもたちに伝えていました。



飲む表情で会話した B さん

小学生 Bさんの好きなジュースを一緒に飲みたいな。寝たままで飲めるの？

トロミをつけて、スプーンで飲むんだよ。 職員

そう聞いても、子どもたちは半信半疑。言葉で説明できないBさんが、美味しそうに飲む様子を見て、子どもたちも飲みはじめました。

Bさんは、自分を見つめる子どもたちに「こんな飲み方もあるのよ」と言わんばかりの表情で笑顔を返していました。



目の動きで会話した C さん

小学生 Cさんは、どんな曲をよく聞いているんですか？

Cさんは目でYesかNoか答えてくれるから、みんなが聞いてみて。 職員

小学生 AKB?...ドリカム?...

話すことやなづくことが難しいCさんは目を動かして、言葉でなくても話しができることを子どもたちに伝えてくれました。



腕の動きで会話した D さん

小学生 みんなで歌を歌ったけど、Dさんは聴いてくれてたのかな？

Dさんの腕の動きを見ながら歌ってみて。 職員

表情の変化の少ないDさんがリズムに合わせてリズムカルに、時にはブンブン激しく腕を振るのを見て、子どもたちの表情も明るくなりました。

Dさんの表情豊かな腕の動きは、子どもたちにも伝わったようでした。

体験学習で終わらない交流活動を目指して

暖の福祉体験学習では、「暖に来た」体験ではなく「暖利用者と一緒の時間を過ごした」体験が子どもたちの記憶に残るよう、職員は利用者と小学生とのコミュニケーションを支援します。言葉が話せる人にも話せない人にも大切な『コミュニケーション』と、そこからはじまる『バリアフリー』を少しでも体感してもらえ交流活動を目指しています。

交流の後、小学生の中には暖に遊びに来る子もいました。これからも、暖利用者ひいては重症心身障がいの方が小学生にとって身近な存在になるような交流を続けていきたいと思ひます。

サークル活動

第二ひまわりでは、月1回サークル活動を行っています。活動の始まりは20年ほど前で、茶道や踊りなど、ボランティアさんのご協力のもと始まりました。

利用者は、いくつかのサークル活動の中から一つを選び、楽しみを共有したり、発表や出展を目標に作品を作ったりします。経験を増やし、気分転換にもなる余暇活動です。

サークル紹介

美容



ヘアメイク、足湯、おしゃれをしてお出かけ、肌に良いおやつを作って食べるなどの活動を行っています。

アート



カメラで写真を撮ったり、アート作品をみんなで作っています。

電車



切符を買い改札機を通るなど、電車に乗り慣れるとともに、散策を楽しんでいます。

書道



折々の言葉を題材に、筆で書くことの楽しみを味わっています。

クッキング



季節を感じる食材を使って、お菓子作りをしています。

生け花



利用者が自分の思いを表現しながら花を生けています。

フィットネス



エアロビクスの先生をお招きして、楽しく体を動かしています。

サークル活動を通じての成長

各サークルでは、一人ひとりが目標を持って活動しています。

例えば、書道やアートは障がい者作品展に向けて作品を作っています。また、苦手だったことや出来なかったことを、サークル活動を通じて行えるようにしていくことも重要な目標です。

今回は、その一例をいくつか紹介します。

Case1:おしゃれ

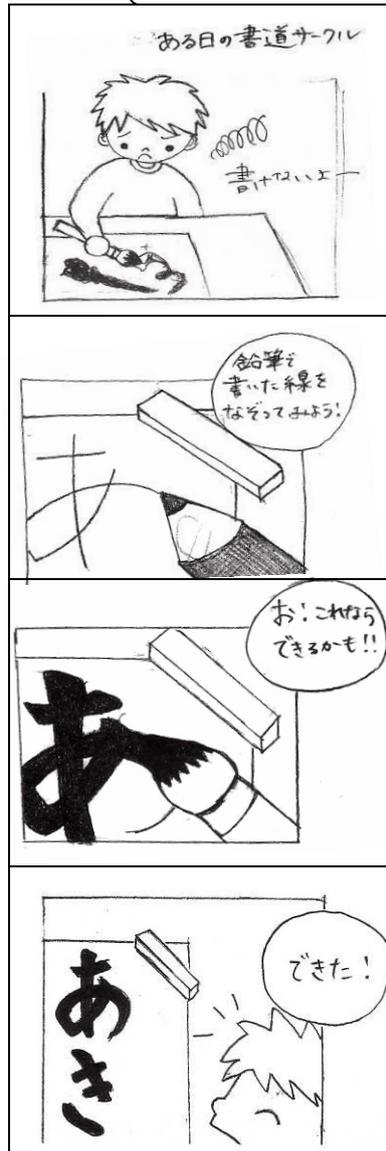


可愛いヘアピンを付けたい!
でも付けるのは苦手...

でも、毎月ヘアピンを付けるうちに徐々に慣れていき...

数ヶ月後、お気に入りのヘアピンを付け、おしゃれに変身することができました。

Case2:字を書く



字を書きたいけど自分一人では難しい...

でも、鉛筆で書いた線を「なぞる」ことは可能でした。

なので、毎月筆で線をなぞる練習をしました。

数ヶ月後、自分1人で味のある字を書けるようになりました。

経験を生かして

サークル活動では、日常生活では味わえないような「経験」や、作品を作り上げた時の「喜び」を利用者に感じてもらっています。その中で、利用者が出来ることが一つでも増えていけばと考えています。

第二ひまわりでは、利用者の皆さんが楽しみながら、いろんな経験を積んでいけるようなサークル活動を今後も続けていきたいと思っています。

発達障がい者の相談

1. はじめに

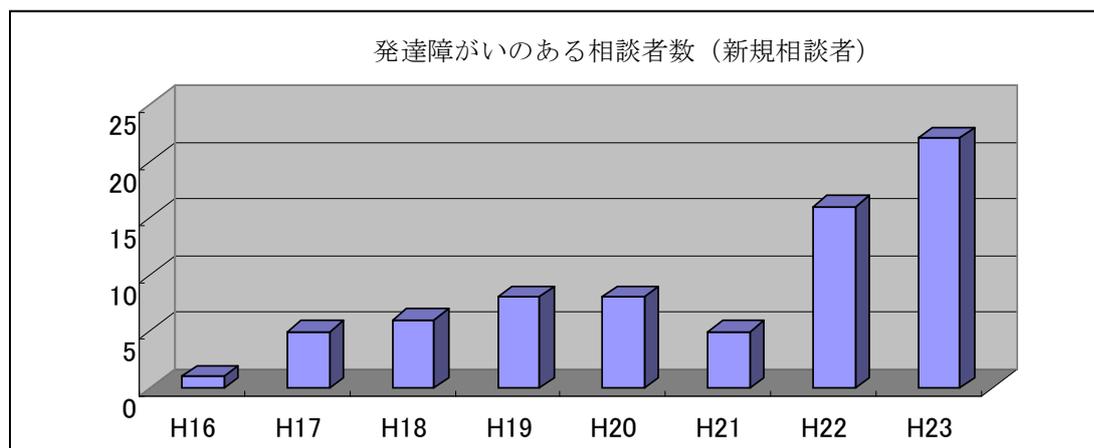
障がい者就労・生活支援センターは、障がいのある方の「働きたい」「働きたい」「生活のしやすさ」をサポートしている相談機関です。相談・登録者は1000名を超え、年間100～150名の新規相談者が来訪、毎月500件近い相談・支援を展開しています。

近年増加している、発達障がいの者の相談から見える傾向と課題について報告します。

2. 発達障がい者の新規相談者数

発達障がいとは、アスペルガー症候群、自閉症、注意欠陥多動性障がい（ADHD）、学習障がい（LD）などであり、主に「コミュニケーションの障がい」です。

発達障がいのある相談者は増加傾向にあります。

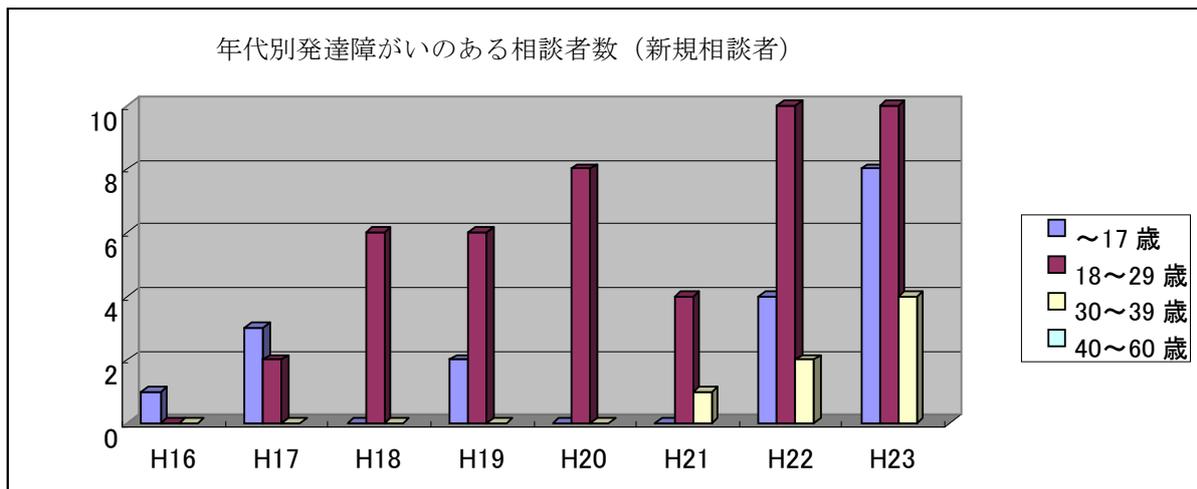


3. 年代別発達障がいのある相談者数（新規相談者）

年代別での近年の動向として、18歳以下の相談者、18歳～29歳の相談者が急激に増えています。

18歳以下の相談者の特徴としては、中学・高校時に「卒業後の進路」で悩まれている方が多い事があげられます。

18歳～29歳の相談者の特徴としては、養護学校時に「卒業後の相談場所」としての登録・相談の方が増えた事と、学校を卒業し社会に出た途端「生活のしづらさ」に悩まれている方が多い事があげられます。



小学校・中学校時に発見され、発達障がいと診断された方は、障がいに対して学校の先生から配慮をされ、特に大きな問題もなく過ごされてきました。しかし、社会へ出た途端に「障がいに対する配慮」がなくなり、とまどいや困る事が増えた方が多くみえます。職場においては「コミュニケーション」「人間関係」などで困られ、その結果離職をされたり、二次障がい（うつ病など）を発症される方が多いことも特徴としてあげられます。

成人してから発達障がいと診断された方は、自分自身の障がいの理解や受け止めがうまくいかず、苦悩される方が多いです。また、高学歴の方が多く、上手に支援機関とつながりにくい傾向があります。

一方で自分が発達障がいと分かった時点で、悩んでいる事の原因が分かったり、気持ちの整理が出来る方もみえます。しかし、自分の人生を振り返った時に、不登校だったことや、いじめにあっていたこと、周りの人となじめなかったこともあり、「もっと早く分かっていたら人生が変わっていた」と話される相談者が多くみえます。

4. まとめ

近年、発達障がいの診断ができる医療機関は増えました。

乳幼児期から小・中学校までの支援が整備されてきましたが、義務教育以降の支援体制が整備されていないのが現状です。その結果、社会へ出た途端、働こうとした時、働いた時に問題が顕在化しています。

通園、こども園、小学校、中学校、高校、大学、就職、現在までの途切れない支援体制を、地域でどう作っていくかということが課題としてあげられます。支援は継続性があり、その時期に応じて展開される必要があります。

また一方で、成人してから発見・診断をされた方をどうサポートしていくか、どこへ相談して支援されていくかという地域に応じた仕組みがある必要性を強く感じています。

発達障がい者の「働く」「働き続ける」「生活のしやすさ」は、障がい者就労・生活支援センターの課題であり、今後もそのための相談・支援を展開していくことと、地域の方と問題を共有して、発達障がい者が安心して就労・生活できる支援の仕組みを考えていきたいです。